

高・超高リスク前立腺癌に対する温熱療法を併用した根治的放射線治療： 温熱パラメーターと PSA 再発率の関連

産業医大・放射線科 戸村恭輔、大栗隆行、山口晋作、上田一生、阪上茉衣、
矢原勝哉、興梶征典
産業医大・泌尿器科 藤本直浩
戸畑共立病院・がん治療センター 大田真、成定宏之、今田肇

【目的】我々は、高・超高リスク前立腺癌に対して放射線治療効果の増感を目的に温熱療法を併用してきた。温熱パラメーターと PSA 再発率の関連性に関し検討した。

【方法】3D-CRT による根治照射と内分泌療法の併用治療を施行された高・超高リスク前立腺癌の連続する 144 例を対象とし遡及的に検討した。温熱療法は 64 例で放射線治療と同時併用された。3D-CRT (70Gy/35fr.) を行い、温熱療法は、8MHz 誘電加温装置を用いて放射線照射期間中に 1 回 50 分、総 5 回(中央値)を施行した。

【結果】観察期間中央値は 61 ヶ月であり、5 年 PSA 非再発率は、温熱群で 82%、非温熱群で 78%と差を認めなかった。温度パラメーターの評価可能な 75 例では、温熱パラメーターの良好であった症例で有意に PSA 非再発率が認められた。また、良好な温熱パラメーターで加温ができた症例群では、非温熱例に比べ PSA 非再発率の有意な改善を認めた。

【結論】高・超高リスク前立腺癌に対する同併用治療において、良好な加温の施行できた症例では PSA 再発率の改善が期待でき、症例選択の重要性が示唆された。